

全学共通授業科目表

学則別表Ⅳ-1 全学総合科目

科目群	部門	科目	単位
全学総合科目群	全学総合講座部門	全学総合講座	2
	全学共通講義科目部門	ことばと思想Ⅰ	2
		歴史と文化Ⅰ	2
		現代社会Ⅰ	2
		自然・環境・人間Ⅰ	2
	全学共通実践科目部門	ことばと思想Ⅱ	2
		歴史と文化Ⅱ	2
		現代社会Ⅱ	2
		自然・環境・人間Ⅱ	2
	スポーツ・レクリエーション部門	スポーツ・レクリエーション	1

備考：

(1) 全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。

○ 本表は、2019年度入学者から適用する。ただし、2018年度以前に入学した者ならびに2019年度以前に第2学年に入学した者および2020年度以前に第3学年に入学した者については、なお従前の例による。

付記：教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。

学則別表Ⅴ-2「各学部共通科目」で修得した科目は、学則別表Ⅳ-1「全学総合科目」又は学則別表Ⅳ-2「外国語科目」の各部門の該当する科目に読み替えることができる。

学則別表Ⅳ-2 外国語科目

科目群	部門	科目	単位
外国語科目群	英語部門	English	1*
	外国語部門（英語以外）	ドイツ語	1
		フランス語	1
		スペイン語	1
		中国語	1
		韓国語	1
		外国語	1
	日本語部門	日本語	1

備考：

(1) 全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。

(2) * 「English」科目の単位については、科目特性によって単位数が異なる。

○ 本表は、2019年度入学者から適用する。ただし、2018年度以前に入学した者ならびに2019年度以前に第2学年に入学した者および2020年度以前に第3学年に入学した者については、なお従前の例による。

付記：教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。

学則別表Ⅴ-2「各学部共通科目」で修得した科目は、学則別表Ⅳ-1「全学総合科目」又は学則別表Ⅳ-2「外国語科目」の各部門の該当する科目に読み替えることができる。

全学共通カリキュラムについて

概要

現代の地球的規模の問題群として、たとえばアフリカの干ばつ、食糧問題など、平和や環境問題などを含め、数多くの難題を抱えています。しかも、どの問題一つとっても、全世界、地球的規模で取り組まないと解決のつかない問題ばかりです。

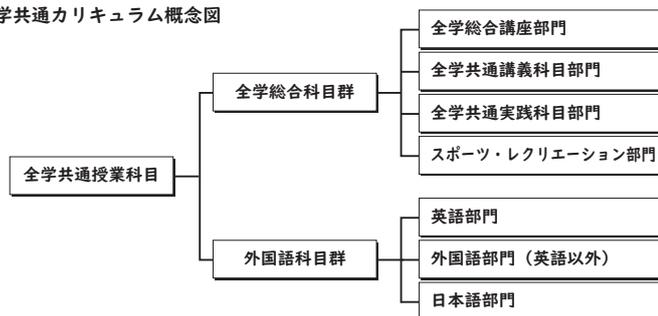
しかし、いまだ世界には、そのための共通の精神的基盤や世界を結ぶ、普遍的な精神の紐帯ちゆうたいが見いだせない状態です。ゆえに、本学が標榜している建学の理念「大学は学問を通じての人間形成の場である」の重要性があります。この基盤なくして世界の幸福や平和はありえません。本学では、この理念のもと、新しい教養主義を掲げ、全学共通カリキュラムを通じて、理想実現に向けて取り組んでいます。

全学共通カリキュラムでは、それらを支える技術や方法など多岐にわたる問題群も取り入れながら、ともに人生の上で大切な教養の問題について深く取り上げていきます。

構成

全学共通カリキュラムは、次の科目群から構成されています。

全学共通カリキュラム概念図



全学総合科目群の特色

全学総合科目群の各部門は次のような意味をもっています。各科目の選択にあたっては、専門学問の学修と関連づけながら、系統性を考慮して選択していくようにしてください。

全学総合講座部門

主として1年生を対象とした全学総合講座科目です。

社会に生起することや、学生生活と学問の世界とを結んでいきます。この科目は一人の担当教員（コーディネーター）を中心にして、複数の講師が担当し、学生の興味・関心を学問の世界へと誘うことを目的としています。知識を獲得することも大切ですが、むしろこの科目では、視野を広げていくことを主眼としています。

全学共通講義科目部門

学問のいわばABCを学ぶ科目が用意されており、広く概括的に論じていく授業です。

全学共通実践科目部門

比較的少人数で実践的な科目です。実習等の形式で集中的に行われる科目もあります。

スポーツ・レクリエーション部門

スポーツ・レクリエーション科目です。4単位まで卒業要件に算入されます。

この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、学生間の交流を促すことを目的にして設置されています。

また、今日健康を維持することは個人の自由ではなく、社会的な責任として認識されなければ、平和で安定した社会を維持することは難しくなるでしょう。

この意味から、積極的に健康づくりのきっかけとしてスポーツ・レクリエーション科目を受講していただきたいと思います。

卓球、バドミントンなどの今まで親しんできた各種スポーツ種目、トレーニングルームで行う日常的に有用なトレーニング関連種目、インラインスケート、カーリングなど日常では体験することのできない種目、合宿形式で山や海で行う、親友を作るきっかけにもなるアウトドア体験種目などを準備し、学年、学科の異なる学生が共同して授業を行います。

多種目を準備し、単なる運動の機会とは捉えずに、将来の充実した生活へのきっかけを作ることを目的にしていることも本学のスポーツ・レクリエーション科目の特徴となっています。

履修登録

春学期科目は4月に、秋学期科目は9月に履修登録を行います。

ただし、春学期と秋学期をセットで履修する科目については、4月に一括して履修登録を行います。『授業時間割表』『シラバス』で確認してください。セット科目は1年間連続して受講することが原則です。

・学科ごとに卒業に必要な単位数が異なりますので、各学科の学則別表を参照してください。

定員制

全学共通授業科目はすべて定員制のため、希望する科目が定員を超えた場合は、抽選となります。

履修条件

秋学期科目の中には、その春学期科目の単位を修得していること、または履修していることを条件とする科目があります。また、学部、学科の受講制限がある科目もあります。必ず『授業時間割表』『シラバス』で確認してください。

重複履修

全学総合講座部門・全学共通講義科目部門・全学共通実践科目部門は、副題が異なれば同じ科目を複数履修することが可能です。

スポーツ・レクリエーション部門は、同一副題、同一担当者でも重複して履修できます。**ただし、卒業要件に算入されるのは4単位までです。**

外国語科目群の特色

英語部門

この英語科目は、外国語学部（ドイツ語学科・フランス語学科）、経済学部（経済学科・経営学科・国際環境経済学科）、法学部（法律学科・国際関係法学科・総合政策学科）の学生を対象としています（外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部言語文化学科は、それぞれ自学科開設の英語科目を履修します）。

学期完結の1単位科目です。「クラス指定科目」は同一クラス、同一担当者で春・秋の2学期（1年間）通して履修することが原則で、1年間で2単位となります。「選択科目」には春・秋と通して履修することが好ましい科目と春のみ、秋のみという学期完結の科目があります。いずれも1学期1単位です。

英語科目には大きく2つの教育目的があります。一つ目の目的は、一般学術目的の英語（EGAP: English for General Academic Purposes）の訓練です。EGAPは、「すべての専攻分野に共通する基本的な学術言語技能」と「英語」の統合を意味します。二つ目の目的は、自律英語学習者の育成と支援です。これらの目的を主眼に科目が構成されています。リスニング（聴解系）、リーディング（読解系）、スピーキング（会話系）、ライティング（作文系）など技能別クラス、基礎文法や資格英語といったトピック別クラス、3年次以上の学生が対象のプロジェクト研究などのクラスがあります。

リスニング科目では、英語のインタビューや講義の効果的な聴き方やノートテイキングの方法を練習します。リーディング科目では、著者の主旨や論拠の読み取り方、情報整理や要約の仕方を学びます。スピーキング科目では、大学生活を送るのに重要な話し方の練習から始め、ディスカッションやプレゼンテーションなどを学びます。ライティング科目では、自分の考えをわかりやすくまとめる論文の作成方法を学びます。

科目名の末尾に、春学期科目は「a」、秋学期科目は「b」の文字が入ります。

クラス指定科目

英語科目のいくつかはクラス指定となっています。同一クラス、同一担当で春・秋の2学期（1年間）通して履修することが原則で、各学期1単位、1年間で2単位となります。これらの科目はTOEIC® LISTENING AND READING TESTの結果などに基づいて習熟度別のクラス編成が行われます。

指定されたクラスで履修してください（詳細は『授業時間割表』参照）。クラス指定科目に関しては、「a」「b」のどちらか（あるいは両方）の単位を修得できなかったときは、翌年度に同じ科目を再履修してください。

選択科目

英語科目には、クラス指定科目以外に選択科目が設定されています。これらの科目も、クラス指定科目と同様にⅠを履修してからⅡへ、というように、基礎レベルから応用レベルへと履修していきます。また、特にレベル設定のない選択科目については履修順序はありません。選択科目は、クラス指定科目と同様、春・秋と通して履修することが好ましいのですが、春のみ、秋のみという履修も可能です。各学期1単位となります。

各学科のクラス指定科目・選択科目については、『授業時間割表』を参照してください。

外国語部門（英語以外）

ローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の順に履修してください（一部Ⅰ・Ⅱが並行履修できる言語もあります）。学期完結の1単位の科目ですが、原則として「a」と「b」をセットで履修し、重複履修はできません。4月に履修登録をしますが、定員を超えた場合は抽選になります。全ての言語のⅠは初修者科目で母語話者は、原則として履修することができません。既習者は、担当教員と相談の上、上位科目から履修開始することができます。
※英語学科の第二外国語、交流文化学科の第二外国語（英語プラス1言語）はクラス指定されます。

基礎コースと総合コース

外国語部門（英語以外）のうちドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語は、週1回履修する「基礎コース」と週2回履修する「総合コース」の2種類が設けられ、どちらかを選択して履修します。原則として最初に選択したコースを途中で変更することはできません。
※英語学科の第二外国語は総合コース（週2回）、交流文化学科の第二外国語（英語プラス1言語）は週3回、3年次に週1回履修する専用クラスが指定されます。

なお、ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅱを履修した人が、さらにその言語の学習を深めたい場合には、ドイツ語、フランス語を第一外国語として開講している学科の授業を「他学部他学科履修」の制度で履修することができます（クラス指定科目、「演習」等、受講できない科目もあります）。詳しくは、教務課外国語学部係まで相談してください。卒業要件に含めることができる「他学部他学科履修」の単位数は所属学部・学科により異なりますので注意してください。

日本語教員養成プログラム

日本語教員養成プログラムとは

日本語教員養成プログラムとは、外国人に日本語を教える教員を養成するプログラムで、全学部全学科の学生を対象にしています。中学・高校の教員免許のような免許制度ではありませんが、日本語教育に従事するにはこのプログラムを修了していることも目安のひとつ（日本語教員の場合は要件のひとつ）になります^(注)。なお、プログラム修了者には修了を証明します。

科目の履修

履修にあたっては、1学期から履修を開始してください。なお、履修登録は各学科が定める学期ごとの登録上限内で行わなければなりません。

日本語教育実習

本プログラムでは実践教育を重視しているため、7・8学期に行われる2週間の教育実習が必要です。原則として夏休み期間中に、学外の日本語学校で行います。

上記プログラムの履修方法および詳細については、4月に行われる「日本語教員養成プログラムガイダンス」や、教務課国際教養学部係で配布される資料で確認してください。

相談窓口

所属学部を問わず、教務課国際教養学部係で受け付けます。

注）2024年（令和6年）4月1日より日本語教員の資格が国家資格「登録日本語教員」となります。これに伴い、本プログラムの内容が一部変更になる場合があります。今後の教務課からの情報に留意してください。

情報科学教育プログラム

概要

情報科学教育プログラムは、情報科学に関する科目を体系的に学ぶことができる教育プログラムです。

対象

2024年度入学者以降の全学部学年の学部生

登録方法

情報科学教育プログラムへの登録は任意です。登録を希望する場合は、履修登録期間中に、PorTaⅡから登録してください。

レベル

修得を目指すスキルのレベルに合わせて、基礎レベル「リテラシー」または応用・発展レベル「アドバンスト」を選択することができます。

履修証明書・修了証

情報科学教育プログラムに登録し、所定の単位数を修得後、申請することで履修証明書・修了証を発行することができます。詳しくは教務課所属学部係にご確認ください。